

# GLORE 2017会合の結果について

# IEEE/ICES規格の動向

- 6GHz–300GHzでのDosimetric Reference Limit(DRL、従来の基本制限(Basic Restriction)から名称変更): 体表面での浸透電力密度 (penetrating power density: PPD)で制限
- 遷移周波数の6GHzの前後で、熱的ハザードに対する一貫した防護のレベルを提示することを意図
- 従来基本制限であった入射電力密度は、Exposure Reference Limit(ERL. Maximum Permissible Exposureからの名称変更)として制限
- 組織加熱の理論的モデル(生体熱方程式)に基づくモデリング研究を実施[Foster et al. 2016, 2017; Morimoto et al. 2016; Hashimoto et al. 2017; Sasaki et al. 2017を引用]
- 300GHzまでの全周波数範囲にわたり、制約なし(一般公衆)と制約あり(職業者)のばく露条件(unrestricted and restricted exposure conditions)の間に5倍の安全係数を維持
- 6–300GHzでの局所ばく露に対するDRL: 制約なしの環境について  $20\text{W}/\text{m}^2$ 、制約ありの環境について  $100\text{W}/\text{m}^2$ ; 平均化時間は6分間; 平均化面積は6–30GHzで  $4\text{cm}^2$ 、30–300GHzで  $1\text{cm}^2$

# 5G関連パネルディスカッション

- 小島正美構成員(金沢医科大学)らによるウサギ眼部ばく露実験(総務省委託研究)について、共同研究者の鈴木敬久教授(首都大学東京)が発表:開眼で固定して目が乾燥する極端な状況での影響等について活発に議論. ICNIRP光放射ガイドラインにおける記述などを参考に、忌避反応などを考慮することについても言及。

